



今年も暑い日が続きます！ 高品質米生産のために

登熟期の適切な水管理を徹底しましょう！

水稻の適期刈取りと適切な乾燥調製につとめましょう！

気象庁の1か月予報によれば、茨城県の 7/29~8/30 の平均気温は高い確率 70% の見込みです。特に 期間の前半(7/29~8/11) は高い確率 80%で、かなり気温が高くなることが予想され、昨年同様 高温による玄米品質の低下が懸念されます。適切な管理を行い、高品質米生産をめざしましょう。

1 出穂期前後の適切な水管理の徹底！

7月5日発行第3060号「高温障害対策で品質のよい米づくりをめざしましょう」で詳しく述べましたが、水稻の根の活力を維持するため、適切な水管理を徹底しましょう。

1) 出穂期後 30 日間は落水を避け、間断かんがいを行いますが、この時期は玄米の成熟にとって大変重要な時期ですので、田面が乾かないように十分注意します。田面が乾く前、表面に水気があるうちに入水しましょう。

2 適期収穫で玄米品質の向上を！

県内では、まもなく「あきたこまち」など早生品種の収穫が始まります。登熟期（出穂期から成熟期）が高温の年は、白未熟粒（乳白粒、背白粒、基白粒など）だけでなく、胴割粒の発生が多くなります。特に刈り遅れるとさらに多くなりますので、適期の収穫が大変重要です。

コンバインによる収穫に適した時期は、穂首近くに緑色を残したモミ（^{たいりょくもみ}帯緑粃）が 10~5% 程度の時で、それから早生・中生種が 5 日間、晩生種が 10 日間です。

収穫時期が近づいたら、平均的な生育の株を観察して、表1を参考に収穫作業の計画を立てます。経営規模や天候の影響により、刈り遅れが予想される場合は、適期より 2~4 日早め（帯緑粃率 15% くらい）に収穫作業を開始し、刈り遅れの圃場が出ないように工夫します。

出穂期別の「穂首近くに緑色を残したモミが 10% になる時期」の目安は表2の通りです。気温等によって変わりますので、ほ場をよく観察して適期を逃さないようにしましょう。

表1 帯緑粃率による収穫適期判定目安

帯緑粃率(%)	収穫適期
20	6~7 日前
15	4~5 日前
10~5	適期
3	刈り遅れ

表2 帯緑粃率 10% になる出穂期後日数の目安

出穂期	出穂期後日数
7月下旬まで(あきたこまち、ふくまるなど)	33~35 日
8月上旬(コシヒカリなど)	40 日ころ
8月中旬(あさひの夢など)	45 日ころ

※出穂期とは、圃場全体の穂の 40~50% が出穂したとき。

3 適切な乾燥調製で玄米品質の向上を！

1) 収穫作業は、もみ水分が 25% 以下まで乾いてから行います。もみ水分が高いほど、また高温であるほど変質しやすいため、収穫後はできるだけ早く（4 時間以内に）乾燥機にはりこみましょう。

2) 乾燥機の送風温度が高いと胴割粒が多くなります。送風温度は 40℃ 以下になるように調整します。

3) 胴割粒の発生を防ぐには、まず常温通風や低温での加熱乾燥により水分を 17~18% まで乾燥させ、半日から 1 日程度貯留して水分の均一化を図り、その後再度加熱乾燥して水分 15% に仕上げる「二段乾燥法」が有効です。仕上がり水分が 13.5% 前後と低くなると胴割れ粒が多くなりますので注意します。

4) もみすりは、穀温が外気温程度まで低下してから行います。温度が高いと肌づれ粒、胴割粒、砕粒が多くなります。

5) 白未熟粒や被害粒は粒厚が薄いものが多いので、1.85mm のふるい目を用いて、適正な流量による丁寧な選別で除きます。特に本年は、高温による白未熟粒や被害粒が多いほ場も予想されるので、丁寧な選別や色彩選別機を活用して、整粒歩合を高めましょう。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

■ 営農 News は JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。